

令和元年度 ウェアラブルデバイス研究会セミナー

AIやIoTの発展とともに腕や頭部などの身体に装着して生体情報や行動情報を取得するウェアラブルデバイスが注目されています。スポーツやヘルスケア分野をはじめ、自動車、サービス産業など幅広い分野で活用が進んでいます。本セミナーではウェアラブルデバイス研究会のこれまでの活動報告とともに、最新のデバイスやセンシング技術、開発事例について紹介し、今後の展開や必要な要素技術について講演を行います。

多くのみなさまのご参加をお願い申し上げます。

日時

令和元年12月5日（木） 13:30～16:40（受付13:00～）

会場

（公財）にいがた産業創造機構テクノプラザ 会議室（長岡市新産4-1-9）

定員

40名（要参加申込み）

参加費

無料（無料駐車場あり）

申込方法

裏面の参加申込書にご記入の上、FAX又はメールでお申し込みください。

申込期限：11月29日（金）※手話通訳等を希望される方は11月15日まで

内容

13:35～13:45

「ウェアラブルデバイス研究会の調査・活動内容報告」

新潟県工業技術総合研究所 素材応用技術支援センター 専門研究員 古畑 雅弘

13:45～15:00

「インテリジェントウェアラブルの実用化に向けて」

長岡技術科学大学 教授 中川 匡弘 氏

グローバル化が進む中、性能、価格、品質等の表層価値から意味的（深層）価値が中心の産業構造に遷移しつつあり、IoH※の技術を活用した新規産業の創造が渴望されている。このような状況の中で、期待されているウェアラブルデバイスの一つとして、小型脳波計による感性計測技術を取りあげ、その活用事例を紹介する。

※Internet of Humanの略称で、「ヒトのインターネット」と呼ばれる。デジタル機器やモノだけでなくヒトまでもがインターネットに接続される概念を指す。

15:10～16:25

「繊維製品の高機能化からスマートセンシングウェアの開発まで」

東洋紡（株）コーポレート研究所快適性工学センター部長 清水 祐輔 氏

衣食住と称されるように、衣料は人間が生存するために欠かせないアイテムであり、最も古い部類の工業製品といえる。この古い素材に新しい機能を付与することで快適性や、ヘルスケアといった新しい価値を創造してきた。スマートセンシングウェア開発までの経緯と現在の取り組みについて紹介する。

16:25～16:40 総合質疑・名刺交換

※プログラムの内容は予告なく変更になる場合がございます。予めご了承ください。



ウェアラブルデバイス研究会セミナー 参加申込書

素材応用技術支援センター行き

E-mail : csozai@iri.pref.niigata.jp

FAX : 0258-63-3586

●セミナー申込記入欄

会社名/団体名			
所在地	〒		
電話	-	-	E-mail
所属・役職	参加者氏名		手話通訳等の希望

※手話通訳等を希望される方は「○」を記入し、11月15日までにお申し込みください。

※ご記入いただいた情報は、本セミナー事業および新潟県からの連絡・情報提供にのみ利用いたします。

会場のご案内

(公財) にいがた産業創造機構テクノプラザ会議室

〒940-2127 長岡市新産4-1-9



【問い合わせ先】

新潟県工業技術総合研究所
素材応用技術支援センター
古畑・橋詰

TEL : 0258-62-0115

FAX : 0258-63-3586

E-mail: csozai@iri.pref.niigata.jp